
ガンダム世界の悪役？がもしリリカルなのはの世界で悪役したら。

ロンメル元帥とリインフォース？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガンダム世界の悪役？がもしりりカルなのはの世界で悪役したら。

【Nコード】

N9564V

【作者名】

ロンメル元帥とリインフォース？

【あらすじ】

ガンダム世界の悪役？がもしりりなの世界に来たらという設定で色々書いて行きます。予定としては、御大将、シャア（CCA）、クルーゼ、東方不敗の順で一人の人物あたり数話構成で行きます。

後ガンダム以外にも、少佐（hellsing）とギル〇ア中佐（地獄の〇示録）もやります。

ギム・ギンガナムの場合（修正版）（前書き）

クロノ コンスコン

ギム・ギンガナムの場合（修正版）

惑星ミッドチルダとその2つの衛星の間の宙域

「アルカンシエル一斉射!!」

クロノ提督の号令と共に艦隊が一斉にアルカンシエルを聖王のゆりかごに向け発射する。

そのすべてがゆりかごに命中し、その刹那ゆりかごの周りに白い光が収束したかと思いきや一気に拡散して大爆発を起こした。

「やりました! ゆりかごの撃沈を確認!」

オペレーターの方が報告する。

其れを受けて艦橋にクルーたちの歓声が一斉に響く。

「終わったな・・・。」

割れんばかりの歓声の中でクロノは小さな声でそう呟いた。達成感と同時に今までの疲れが一気に出てくるが、瞬時に気を引き締める。

（いかんいかん。無事帰投するまでが戦闘もとい、作戦行動と言うものだ。）

その判断は正解であった。そうまだ戦いは終わっていないかった。

「提督! レーダーに感有り! 月（大きい方）軌道上です。戦艦クラスと思われる反応が30! 此方に接近してきます!」

「なに！ 艦隊戦用意！回頭急げ！」

side 御大将

我らが御大将ギム・ギンガナムは既にターンXに搭乗し、出撃準備を完了していた。

「御大将！ 管理局艦隊が此方に向けて反転してきました。」

環境にいるオペレーターから無線で通信が入る。

「ほお、向かってくるのか管理局。このターンXで全てを破壊して新しい時代を始めるのだ！ターンX出撃するぞ！ 小生が発進し次第メガ粒子一斉発射、各艦任意に突撃せよ！」

カタパルトからターンXが飛び立つ。目指すは敵艦隊のみ！

side 管理局

「艦種特定まだか？」

「熱紋ライブラリー照合中です・・・完了しました！ 該当艦ありません！」

「無いだと、スカリエッティめ自前で戦艦まで建造していたというのか？ しかもあれだけの数を。それとも別の組織なのか？ 管理局に悟られずにアレほどの戦力を揃えるなど。」

「敵艦から巨大なガジェットらしきものが一機発進しました。大き
さ約20メートル！」

高速で此方に接近してきます・・・接触まで40秒！」

「武装隊を出すんだ！迎撃しろ！アルカンシエルはどうなっている
！」

「現在冷却中、再発射までには暫くかかります！」

side 御大将

「シャイニングフィンガーとはこういうものだ！！」

ターンXの開いた掌からビーム状物質が発生し、Iフィールドでそ
れを形にし武装局員の一人に突き刺すというか飲み込む。

局員は障壁を展開していたがまるで役に立たなかった。出力が違い
すぎるのだ。

局員の体は宇宙空間に霧散していく。

「数だけはいいな！しからば」

ターンXの機体が頭部、両腕、両肩、胸部、背部、腰部、両足の9
パーツに分離分離し局員達にオールレンジ攻撃を仕掛ける。

局員達は一人また一人と討ち取られていく、ある者は目まぐるしい
変化自在の攻撃について行けず背後からの攻撃に気づけずメガ粒子
砲に灼かれ、又在るものは攻撃範囲から離脱しようとするも正面を
取られメガ粒子砲を障壁で防ごうとしたが呆気無く貫通し灼かれた。
こうして差し向けられた武装隊は3分も経たない内に全滅した。

「このターンXすごいよオ、さすが管理局のお兄さん！」

「さて次は、そこだ！」

艦隊の右翼担う一隻に向かってギンガナムはビームを放ちながら突撃し距離を縮めていく。

ビームは艦の前部、後部、右舷、左舷に数発ずつ命中しそこから爆発が起こっていく。

そして、「シャイニングフィンガー！！」艦橋にターンXの手が突き刺さり爆散する。

其れを皮切りに艦全体に誘爆していき、大爆発を起こし撃沈された。

side クロノ

「武装隊が全滅？3分もたたずにか？」

あまりの衝撃的な出来事にクロノは数秒間茫然自失となるが、すぐに切り替えて状況を冷静に整理し始める。

「機動六課からも戦力を回させろ！」

機動六課の八神二佐に通信がつながりモニターに映像がでる。

「クロノ提督！！今一体何が！」

はやて達機動六課もかなり混乱しているようだった。

激戦の末敵戦力を無効化し、船に回収されて早々対艦戦闘ともなればそうなるであろう。

「簡潔に言う。30隻の戦艦と強力なガジェット一機こちらに突撃

してきている。

此方の武装隊は既に壊滅した。

六課からも投入できるすべての戦力を回してくれ。」

はやては一瞬驚きの表情を浮かべるが、すぐに冷静に状況を受け止めた。

疲れて眠るなのはたちを一瞥してはやてはクロノは告げた。

「私とティアナとスバルで出る。隊長陣は今出撃してもいい的になるだけや。シャマル！皆の治療を」

そこではやてとの通信を切ったクロノ。ちょうどその時であった。

「ドレッドノート撃沈！！敵質量兵器のビーム兵器は出力が高いためVX級の障壁でも持ちません！」

艦橋の窓からもその青い大爆発が確認できた。

クロノは無念そうな表情を浮かべる。

「アルカンシエル再チャージ完了しました！」

「よし目標敵艦隊中央！ 撃て！！！」

細長く伸びた左右の端子の間に白い光が球状に収束していき臨界点に達し光の渦が敵艦隊に向けて直進していった。艦橋にいる誰もがこれで数隻は沈められる筈だと確信していた。しかし、その確信は最悪の形で裏切られることとなる。

s i d e e n d

「敵旗艦、アルカンシエル発射態勢を確認！」

「Iフィールドバリア最大出力で展開しろ！！」

ギンガナム艦隊に発射されたアルカンシエルはIフィールドによって霧散した。

その様子をギンガナムも確認していた。そして、オープンチャンネルの回線を開いてこう言っただけだ。

「フハハハハハハ、2500年も演習を続けてきた武門の家柄は、高々100年ちよつとの軍とは違うのだ！」

ギンガナムが次に沈める艦を見定めているところに、機動六課の面々が攻撃を仕掛けてきた。

それを余裕を持って躲すギンガナム。

「管理局ごときが小生を倒すなんぞ、出来るわきゃねえだろおおおおお！！」

ビームと砲撃・弾丸・拳の打ち合いが始まるが10分としない内に消耗しているはやて、ティアナ、スバルは一気に分離したターンXに拘束される。（一気に3人まで拘束できるように改良済み）

「貴様らの生体反応のデータを取りつつ神の国への引導を渡してやる！」

はやて、スバル、ティアナが金縛りされ苦しみながら悲鳴をあげる。

「うう、みんな、ほんまに、ご」

「ギン、ね、え」

「お、おにいちやん」

死を覚悟し三人はそれぞれ愛おしいひとの事を口にするが、それがギンガナムを更に激昂させた。

「戦場でなあ、恋人や家族の名前を呼ぶ時というのはなあ、瀕死の兵隊が甘ったれて言うセリフなんだよ！」

激昂したギンガナムはサーベルで瀕死の三人を刈り取ろうとしたその時、魔王が君臨した。

「皆をやらせはしない。刺し違えてでもその命貰い受ける！ スターライトブレイカー！！！！！！！！」

なのはは覚醒した後、シャルから事情を聞かされ酷使した体に鞭打ってヴィータの制止を振りきって出撃したのだ。

その際、一発だけでいいからSLBがもう一度全力全開で打てるようにとシャルマルに応急処置をもらった。何らかの後遺症が残るのも覚悟の上でだ。

そんなわけで、高町なのはによって放たれたスターライトブレイカーが極太のビーム、まるでソーレイのような、がターンXを飲み込んだ。

「オ・ノーレ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

はやて、スバル、ティアナ、クロノ、艦隊の局員全てがこんどこそ勝利と戦闘終了を確信したがしかし、

「このターンX
すごいよ！スモーのエネルギーは全てもらっている」

る。

ゲンガナムの電力を頂いたようにな！

分かっているのか！ナノハ・タカマチ！！！！」

悪魔のような声がオープンチャンネルで再び響き渡る。

「月・光・蝶でええええあああああるるるるる！！！！！！！！！！」

ターンX から噴出した月光蝶はあっという間に管理局の艦隊を超えものすごい勢いで拡散していく。

その日、惑星ミッドチルダは月光蝶の光に包まれ、文明は消滅した。

（完）

シャア・アズナブルの場合1（前書き）

某動画によるとなのはSLBのエネルギーが約7ペタJ

人類最大の核兵器ソ連のツァーリボンバーは約210ペタJです。

（自国領土への影響に配慮して実際は半分の威力核実験した。）

シャア「行け！本局忌まわしい記憶と共に！！」

シャア・アズナブルの場合1

其れは突然の出来事であった。

JS事件の解決から数ヶ月、機動六課の正式解散一週間前、時空管理局次元航行部隊観艦式が行われていた管理局本局が何者かによって核攻撃を受けたのだ。

JS事件で管理局の腐敗が多々明るみに出たのため、今回の観艦式はそのマイナスイメージを払拭したい3提督をトップとする新体制が新生管理局をアピールするためのものであった。もともと、トップが交代しただけで問題の根本的解決は行われていなかったのだが。ともかく、本局が誇る巨大障壁も水爆の圧倒的熱量には耐え切ることが出来ず、障壁と本局駐留艦隊は蒸発した。

障壁が消滅したところに内部にも核ミサイルが打ち込まれ中にいた数百万人の局員も一人残らず宇宙のチリの消えた。

いきなりの本局核攻撃にJS事件後の後始末と混乱にあたふたしていた地上本部は大混乱となっていた。

そんな時、オープンチャンネルで一人の男が演説を全世界に向けて開始した。

「全ミッドチルダ市民に告げる。私はネオ・ジオン総帥 シャア・アズナブルである。」

ミッドチルダ政府は我々を宇宙へと追いやり、地上から管理局を使い我々を支配してきた。

そしてミッドチルダ政府・時空管理局の一握りのエリートがその私利私欲を満たすためだけに我々スペースノイドは自由を奪われ続けてきたのである。

（この話の中の設定…ミッドチルダ政府は増えすぎた人口を管理局創設と同時期から宇宙に移民させ続けてきた。

それは主に貧困層を強制的にコロニーや管理外世界の惑星に移住させるものであった。

コロニーではコロニー建造費を空気税として取られ続け、管理外世界の惑星では開拓に従事させられた。

しかしミッドチルダ本国から自治は一切認められなかった。」

だが、この屈辱の歴史も今ここで終わる！

腐敗したミッドチルダ政府とその暴力装置たる時空管理局を砕きスペースノイドの真の自立を勝ち取るため、我々ネオジオンはミッドチルダ政府及び市民そして時空管理局を粛清する事を今ここに宣言する。

ミッドチルダの諸君。（シャアの演説する姿が画面右下に移動され、コロニーが映しだされる。）

これは、愚劣なる貴様らミッドチルダ市民に対する裁きの鉄槌である。

神の放ったメギドの火に必ずや諸君らは屈するであろう。（コロニーに取り付けられている核パルス推進装置が始動し、巨大な火を噴く。）」

side ネオジオン

シャア「奪取した本局への核パルス推進装置の取り付けはどうなっているか？」

ナナイ「あと10時間で完了する見込みです。」

シャア「コロニーはどうなっている？」

ナナイ「大佐の演説と同時に核パルスを始動、後9時間で阻止限界

点です。」

核パルス推進装置の取り付けが完了するまでおよそ十時間、核パルスを起動してからミッドチルダへ落下阻止限界点に到達するまではおよそ12時間である。

それまで何としても本局施設を確保し続けなければならない。

本局の駐留艦隊が壊滅したことで時空管理局次元航行部隊全体の戦力のほとんどが失われたが他の世界に出張っている戦力及び他の基地に駐留している戦力が第一管理世界にやって来るのは時間の問題であった。

しかし、戦力の大部分が観艦式のため本局に集中していた点、目下戦闘作戦中の部隊や整備・補給・損傷度合いの関係から出撃できない戦力がある点を加味するとミッドに救援に来れる戦力はVX級数隻と予測されていた。

したがって問題は、地上から宇宙に上がってくる部隊であった。

しかし、地上部隊の中には宇宙空間戦闘ができる空戦魔道士が少なかった。

空戦魔道士や空戦や陸戦どちらにも適正がある優秀な魔道士はその殆どが次元航行部隊に所属していたのだ。

上記のことからネオジオンは宇宙に上がってくる部隊は機動六課と首都航空隊に限られるだろうと予測していた。

シャア・アズナブルの場合2（加筆修正版）（前書き）

加筆しました。

自分は関西弁あまり分からないので、はやての関西弁がおかしかったら指摘してください。

シャア・アズナブルの場合2（加筆修正版）

コロニー落下阻止限界点まで後五時間と迫るなか、ネオジオンと機動六課・首都航空隊が目下戦闘中であつた。

「シャア・アズナブル！なんでこんなものを地球に落とすの！？
これでは、ミッドチルダが寒くなつて人が住めなくなるよ！
核の冬になっちゃうんだよ！」

なのはがシャアに向かって言う。

「ミッドチルダに住む者は自分達のことしか考えていない！
だから抹殺すると宣言した！」

「人が人に罰を与えるなどと！」

そう叫んでフェイトがシャアに斬りかかりかかるが、シャアもビームサーベルで其れに応戦する。

「私、シャア・アズナブルが肅正しようというのだ、管理局の諸君
！」

「エゴやで、それは！」

八神はやても前線に投入されている。

「貴様ら管理局とて、人を裁いてきただろうに！」

結局、ギラドーガ部隊と交戦した首都航空隊の消耗の激しさ（4割が撃墜）、シャア・アズナブルが操るMSの性能の高さによって戦況は終始不利であり、コロニーは阻止限界点を超えてしまった。

コロニーは大気圏突入前・大気圏落下中にアルカンシエルによる度重なる砲撃を受けたため地上に落下する前に2つに崩壊した。そのため落下軌道が大きく変わりミッドチルダの大陸ではなく、海に落下してしまった。

しかし、落着の2次被害として衝撃波や津波、気象変動などが発生して、23億もの生命が失われた。

本局阻止限界点まであと11時間弱

VX級艦内ブリーディングルームここでは今、目前に迫った本局施設のミッドチルダ落下阻止作戦の打ち合わせが機動六課を中心に行われていた。

八神はやて二等空佐は戦時特例により二階級昇進し少将となり今回の落下阻止作戦の指揮を撮ることとなった。

主だった空の佐官・将官、3提督のうち病氣療養中であった1人を除く2人は観艦式に参加し核攻撃により死亡したのだ。残ったのは実践の「じ」の字も知らない官僚軍人ばかりであった。

そのため、JS事件で活躍著しかった機動六課の部隊長である八神はやてに三提督の生き残りであるレオーネの推薦もあって白羽の矢が立ったのである。

そして、その八神はやてが立案した作戦はとんでもない物であった。

本局施設は4つの区画に分けられ、東のEフィールド、西のWフィールド、南のSフィールド、北のNフィールド、それぞれの区画に1つずつポートがあるのだが、はやてはそのそれぞれにアルカンシエルによる艦砲射撃を全てのポートと核パルス推進装置に対して行い本局に十字状の空洞を作り、そこに核爆弾を仕掛け、更に本局内を網の目のように走る通路の最適な場所に爆薬を設置して爆破、本局施設を2つに分離し本局の軌道を逸らし、ミッドチルダへの落下を阻止するという作戦を立案した。

これには、上から反対意見が相次いだ。それはもちろん、核兵器の使用という点についてだった。

しかし、はやては言った。

「だったら聞くが、本局施設ほどの質量を持つ巨大構造物の軌道を変えるのに十分なエネルギーを持つ魔法があるんか？」

結局、この作戦は承認され、今はやてがブリーディングルームで六課を始めとした作戦参加部隊に説明しているところである。

因みに、核爆弾はテロリストグループから押収し、解体される所だったものを急遽徴発した。

・

・

・

・

・

・

・

「……………という訳でこれが作戦内容や。皆ええか？」

「はやてちゃん…………その核を使うって、他に方法はないの？」

他のメンバーをなのとは同じ事を思っていることを目で伝えてくる。

「こうするしか無いんや。責任は全て私取る。ミッドチルダに本局が落ちないで済むのなら後で後ろ指を指されようが、更迭されて冷や飯を食わせられようがかまへん。」

そう言っではやてはブリーディングルームに集まっている皆を黙ってさっと思渡した後、真剣な顔をして

「すまんな……。皆の命、私にくれてやったってや。」

と若干小さく、しかしはっきりと皆に聞こえる声で言って敬礼をする。

全員がそれに応えて敬礼をする。

皆が命を賭しても作戦を成功させることを覚悟した目であった。

東方不敗マスターアジアの場合（前書き）

シヤア編完結の前にちよつと寄り道です。

東方不敗マスターアジアの場合

東方不敗の文を書こうと思ったんですが、時分が構想したのと同じ展開の小説が既に投稿されていました。

新しい展開考えるのも難しくて、それで今回はその小説をご紹介しますという形で勘弁して下さい。

魔法マスター リリカルアジア！！ 見よ！ 東方は赤く燃えている！！！！ 前編

<http://www38.atwiki.jp/nanohas/pages/1553.html>

魔法マスター リリカルアジア！！ 見よ！ 東方は赤く燃えている！！！！ 後編

<http://www38.atwiki.jp/nanohas/pages/1562.html#>

以下字数稼ぎ

ふと曼荼羅ガンダムを思い出したので、仏教つながりで般若心経で字数稼ぎ

仏説摩訶般若波羅蜜多心経

観自在菩薩行深般若波羅蜜多時、照見五蘊皆空、度一切苦厄。舍利

子。色不異空、空不異色、色即是空、空即是色。受・想・行・識亦復如是。舍利子。是諸法空相、不生不滅、不垢不淨、不增不減。是故空中、無色、無受・想・行・識、無眼・耳・鼻・舌・身・意、無色・聲・香・味・觸・法。無眼界、乃至、無意識界。無無明、亦無無明盡、乃至、無老死、亦無老死盡。無苦・集・滅・道。無智亦無得。以無所得故、菩提薩？、依般若波羅蜜多故、心無？礙、無？礙故、無有恐怖、遠離一切顛倒夢想、究竟涅槃。三世諸仏、依般若波羅蜜多故、得阿耨多羅三藐三菩提。故知、般若波羅蜜多、是大神呪、是大明呪、是無上呪、是無等等呪、能除一切苦、真實不虛。故説、般若波羅蜜多呪。

即説呪曰、羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提薩婆訶。般若心經

シャア・アズナブルの場合3

作戦は半ばうまくいった。

八神はやてが率いる本局落下阻止部隊はアルカンシエル発射のため前線に突撃したVX級5隻中3隻を失いながらも、アルカンシエルにより核パルスを破壊し、4つポート同士を貫通させたのである。ア・バオア・クー並に大きい本局の全てのフィールドを防衛するにはネオジオンの戦力は少なすぎたのだ。

また、地上本部が飛べるなら合格という基準を適用して陸士部隊からかなりの増援を出し物量でネオジオンを押しているだ。撃墜率も半端ないが。

「高町なのは！！地上に残った人類などは、地上の蚤だということが何故分からんのだ！！」

「なにがッ！」

「愚民どもや管理局に利用され、その力を無駄に消耗していると、なんで気がつかん！」

「貴方こそッ！」

腹部メガ粒子砲とディバインバスターを正面から打ち合う。

「押し負ける！？ 管理局の白い悪魔は化物か！」

打ち合いに押し負けたシャアだが直撃だけはなんとか回避する。しかし、ライフルがやられてしまった。

「シャア・アズナブル。貴方は世直しのこと…知らないんだね。革命はいつもインテリが始めるけど、夢みたいな目標をもってやるからいつも過激なことしかやらない！」

「四方から電波が来る!？」

（高町なのは、奴はニュータイプだとも言うのか？管理局それも地上に籍を置きながら！）

「しかし革命の後では、気高い革命の心だって、官僚主義と大衆に飲み込まれていくから、

インテリはそれを嫌って、世間からも政治からも身を引いて世捨て人になる。だったら…」

サザビーの足が撃ちぬかれる。

「私は、世直しなど考えていないッ！愚民共にその才能を利用されている者が言うことか！」

そう言ってシャアは一気になのはに接近してなのはに斬りかかる。しかし

「バインドだと!! そうか」

シャアははっと気付く。

先程からの機体ダメージの蓄積でAMFフィールド効果を付与したIフィールドが著しく低下していたのだ。

計器を見れば分かる単純ことなのにと、戦いの最中に興奮して気づかなかったかった自分を呪うシャア。

（原作でもパワーダウンして初めて気がついたシャアは戦いの最中相手によっては相当興奮してしまうのだ。というより、アムロだからか？）

二本の腕と一本の足を何重にもバインドで拘束されていて身動きの取れないサザビー

高町なのは砲撃体制に入っている。

「高町なのは！ 貴ッ様がいなければッ！」

「これが私の全力全開！ スターライトブレイカー！！！！！！！！」
サザビーが桃色の光に吸い込まれるその寸前シャアは脱出ポッドを射出して脱出を図る。

「逃さない。」

砲撃を終えたなのは鎖状のバインドで脱出ポッドを捕まえて自分のもとに引き寄せた。

その時であった。

本局の至る所で立て続けに爆発が起きたかと思うと視界が数秒ホワイトアウトした。視界が回復するとそこには2つに別れていく本局の姿があった。

なのは、はやて、フェイト、その他すべての人々はミッドが救われたと確信したが、しかしシャアの嫌な笑い声がオープンチャンネル無線を通して響いてくる。

「フフフフフ： はははははは！」

「何がおかしの！？」

「私の勝ちだな。」

いま計算してみたが本局の後部はミッドの引力に引かれて落ちる。
貴様等の頑張り過ぎだ！」

「ふざけないで！ たかが石ころ一つ、私が押し出す！」

そう叫んで、シャアの脱出ポッドごと本局を押し返えそうとするなのは。

「バカなことはやめろ！」

「やってみなければ分からないの！」

「正気か！？」

「貴方ほど急ぎすぎもしなければ、人類に絶望もしちゃいない！」

「本局の落下は始まっているんだぞ！」

「エースオブエースの称号は伊達じゃない！！！」

旗艦 ホワイトアーク級

（ホワイトアーク級一番艦のホワイトアークは観艦式に参加しリン
ディ提督、クロノ提督ともろともに核攻撃によって蒸発したが、二
番艦であるこの間は観艦式の時に、地上での進水式であり難を逃れ

ていた。」

シャアの言葉を受けて呆然としていたはやてだが、なのはの行動によって彼女は吹っ切れた。

「なのはちゃん……艦を本局の後ろにつけるんや!!」

副官のグリフィスや他のメンバーが「え?」という顔をする。

「ホワイトアークで本局を押すんや!!」

「無茶言わないでください。八神少将!!」

副官のグリフィスは身を乗り出して命令するはやてを必死に諫める。

「「なのは(高町)!!」」

「え、フェイトちゃん! ヴィータちゃん、シグナムさん!」
フェイトとヴィータとシグナムが、なのは横で本局を押す。

「我等もだ」

ザフィーラ、シャマル、ユーノ。

「機動六課だけに良い思いはさせませんよ!」

他の一般局員たちまで集る。

「みんなやめて！こんなことに付き合う必要はないよ！」

そして、ウイングロードがはしってくる。

「はあああああっ！」

「でやあああ！」

ティアナとスバルも踏ん張っておさえるが、後ろへと押されていく。

「私達もいますよ！」

さらに、エリオ、キャロ、フリードリヒ、ヴォルテールも本局を押す。

エリオとキャロはヴォルテールに乗りながら押している。

「…無理だよ、みんな下がって！」

「ミッドがだめになるかどうかなんでしょう？やってみる価値はありますよ！なのはさん！」

スバルがそう叫ぶ。

「離れて！うっ！レイジングハートの力は！」

なのはの体から、虹色の光があふれ出した。

「なにっ…これは、」

驚くシャア

「いける…」

その虹色の光は、どんどん広がっていく。
それに包まれた者は不思議な感覚におちいる。

「「これは…優しい、温かい…」」

本局を押し返している全員がそう感じた。そして、本局を押し返していたのは以外隊員は全員虹色の光りに包まれて本局から離れていく。

ホワイトアーク艦橋

オペレーター「本局進路変更確定、ミッドから離れます!!」

はやてを含めて艦橋にいる面々は歓声を上げるでもなく、不思議と心地よい虹色の光に見入っていた。

「なんて、あたたかい光なんや。

なのはちゃん。ありがとうかな。ほんまにありがとうな、みんな。」

こうしてミッドチルダは高町なのという尊い犠牲によって救われたのであった。(完)

ギル〇ア中佐の場合1（前書き）

うーん需要あるのかなこの作品って

ギル〇ア中佐の場合1

「ヴェイン・デイン・ドロップ？ここはベトコンの拠点です。バッチリ武装されています。」

「ここについて何か知っていることはあるか？」

「波があります。」

「波だと？」

「波が左右に分かれて2メートルは立ちます。サーフィンには最適です。」

「よしここを占領する。」

「ベトコンの拠点ですよ。危険過ぎます。」

「奴らはサーフィンしないだろ！！」

その鶴の一声でベトコンの拠点への攻撃が決まった。

・ ・ ・ ・ ・

そして今、空の第一騎兵隊（攻撃ヘリコプター部隊）が騎兵ラッパの合図で一斉に飛び立っていく。

それから、30分あまりヴィンディンドロップ目指して飛行を続けていた第一騎兵隊であったが、ベトコンの拠点まであと少しという所で、空の第一騎兵隊ヘリ全23機がリーダーから姿を消した。

「ここはどこだ？」

「さっきまで飛んでいた場所とまるで違うぞ！」

隊員の間に動揺が広がる。一方中佐と中佐のお気に入りランスは

「見ろランス。2メートルどころか3メートルは固いぞ！」

「西海岸生まれの血が騒ぎますね。早く占領してサーフィンしましょう中佐！」

今彼らがいる所は地球ではなかった、ましてベトナムの海岸などではなかった。今彼らがいる所そこは第一管理世界ミッドチルダに機動六課（空港のように海に面している）、から3キロの海上であった。

「お前ら、突然景色が変わったのは、ベトコンの罠だ。仏教の魔術に違いない！惑わされるな！」

取り敢えずあそこの海岸一体を占領してサーフィンするんだ。それで全てうまく行く。国に戻ったら勲章もんだぞ！」

支離滅裂なことを言う中佐、しかし戦場の興奮で誰もそんな細かいことを気にけなかった。

「全機攻撃態勢！ミュージックだ！ワーグナーを鳴らせ！！」

♪~~~~~♪~~~~~

中佐「行くぞ野郎ども！！」

「イエッサー！！」

「イエエア！」

中佐「ハッハー！！！！」

その頃機動六課では、

次回続く

お知らせ。(前書き)

繰り返しているのは200字以上にしないと投稿できないからです。

お知らせ。

このシリーズは無期限更新停止にします。

掲載中小説の場合は、リンク切れ・システム負荷削減の為、連載継続が困難な場合でも小説は残して頂きますようご協力をお願い致します。

と運営サイドの注意書きがあったので削除はしません。

更新停止の理由は、この小説の需要がないと思ったことと、そのため制作意欲が失せた為です。

今まで読んでいただいた方、ありがとうございました。

このシリーズは無期限更新停止にします。

掲載中小説の場合は、リンク切れ・システム負荷削減の為、連載継続が困難な場合でも小説は残して頂きますようご協力をお願い致します。

と運営サイドの注意書きがあったので削除はしません。

更新停止の理由は、この小説の需要がないと思ったことと、そのため制作意欲が失せた為です。

今まで読んでいただいた方、ありがとうございました。

このシリーズは無期限更新停止にします。

掲載中小説の場合は、リンク切れ・システム負荷削減の為、連載継続が困難な場合でも小説は残して頂きますようご協力をお願い致します。

と運営サイドの注意書きがあったので削除はしません。

更新停止の理由は、この小説の需要がないと思ったことと、そのため制作意欲が失せた為です。

今まで読んでいただいた方、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9564v/>

ガンダム世界の悪役？がもしリリカルなのはの世界で悪役したら。

2011年11月15日11時51分発行